

お茶婆さん

(台座にお茶婆さんと刻まれた石祠)

中島孝二

諏訪町の大久保公園には、諏訪部神社と水天宮、そして台座にお茶婆さんと刻まれた石祠とがまつられています。この石祠には、どのような神様がまつられているのでしょうか。

地元の人々は「咳の神様である。昭和38年に、中里の春日野中学校の西門の前あたりにあったものを大久保公園内に移し祀ったものである。近くの茶店のお婆さんが、この祠に詣でる人々をととても親切にお世話をしてくれたので、お婆さんが亡くなった後、親切にしてもらった人達が感謝のしるしとして台座にお茶婆さんと刻んで故人を偲んだ。」などと言っておられます。



大久保公園内の諏訪部神社

春日野中学校が現在の場所に用地を定め校舎を建てたのは昭和24年です。咳の神様をまつてあると言われるこの祠がもともと春日野中学校の西門の前あたりにあったものか、他所からそこに移されたものか、社の規模、茶店のあった場所など今は知るよしもありません。県立平塚商業高校あたりが一面水田であった昭和26年頃の写真などからこのあたり一帯の往事のたたずまいを想いめぐらせるばかりです。

真田の天徳寺(曹洞宗)の境内に、真田与一義忠の廟所があります。治承4年(1180)源頼朝が石橋山で挙兵したとき、父岡崎四郎義実と共に参戦し、8月23日討死した義忠は「真田の与一あん(与一さん)」と呼ばれ、痰や喘息の神として信仰されています。廟所は義忠の居館のあった場所に建てられたと言い、その玉垣には地元をはじめ平塚市内、秦野市、伊勢原市、藤沢市など多くの人々の名前が刻まれ、中でも「横浜松明講」が最も大きい信仰集団であるといわれています。

毎年8月23日に行われる本祭には多くの人々が集り、痰咳平癒を祈願した神符も出されています。神

符には「真田尊御影」、「真田尊霊御符」があり、この御符は和紙の6厘角ほどの大きさで湯茶で呑込むものです。

この様なことから私は大久保公園内の咳の神様といわれる石祠の祭神は「真田の与一あん」であろうと思っています。

往時、ホオヅキの根を煎じて喘息の薬として服用していた時期、真田の与一あんにおまいりしてその苦しみを柔げようとしていたころ、真田までは遠くて常には行けない人々が近くに分霊した「与一あん」にお詣りして「お茶婆さん、の親切な手助けを受けながら御符を呑んで慰め合い励まし合ったであろう情景を思い浮かべることが出来ます。

現在多くの人々がいろいろな分野で心温まる奉仕活動をしておられますが、お茶婆さんもきっとこれらの方々と同じ気持ちで参詣人に接しておられたのでしょう。

なお真田与一義忠が討死した石橋山(小田原市早川)には「佐奈田霊社」があり、廟所と同じように祭礼が行われていて、ここには与一と共に討死した郎党陶山文三家康の塚もあります。



石祠の台座に「お茶婆さん」と刻まれている



発行//平塚市(文化行政推進室)

〒254-0045 平塚市見附町15-1
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/>

●お問い合わせ

施設利用に関すること TEL 0463-32-2235
事業に関すること(平塚市文化財団) TEL 0463-32-2237



FAX 0463-31-6466